



第122回品質管理シンポジウム(122QCS)

2026. 12/3Thu~12/5Sat

<https://www.juse.jp/qcs/>



日本の産業力を高めるために企業が提案すべき 多様化する価値への対応

~社会価値・顧客価値の最大化に向けた新たな山脈づくり~

特別講演

小倉 隆史 氏
(株)FC.ISE-SHIMA
代表取締役



基調講演・ オリエンテーション

田熊 範孝 氏
NEC ファシリティーズ(株)
取締役会長



基調講演・ オリエンテーション

東 正宜 氏
イー・アンド・エム(株)
取締役執行役員専務



講演1

今岡 仁 氏
日本電気(株)
NEC フェロー



講演2

木村 哲也 氏
旭鉄工(株)
i Smart Technologies (株)
代表取締役社長



講演3

笠原 英一 氏
立教大学大学院
ビジネスデザイン研究科
客員教授



講演4

菅野 沙織 氏
日本輸入化粧品協会
理事長



趣旨



田熊 範孝 氏

NEC ファシリティーズ(株)
取締役会長
第122回
品質管理シンポジウム
主担当組織委員

将来の不確実性が高まる中で、各国では経済安全保障やデカップリングへの対応が急務となっています。こうした変化や国家的な対応は企業活動に大きな影響を及ぼしますが、それはリスクであると同時に機会でもあります。大きな変化を機会と捉え、活かすことができれば、より良い社会の創造につながります。

加えて、AI(Artificial Intelligence)、IoT(Internet of Things)、ロボット、ブロックチェーンなどのデジタル技術や、バイオテクノロジーに代表される世界規模の急速な技術革新が進んでいます。これらは単なる技術の進歩にとどまらず、社会や産業構造に大きな影響を及ぼしています。これらの技術によって、都市、医療・介護、教育、モビリティ、エネルギー、防災、農業など、あらゆる領域のあり方が変わろうとしています。

この大変革期の中で、人々の価値観やライフスタイルは一層多様化し、顧客価値・社会価値も大きく変化しています。私たちは、多様化する価値をこれまで以上に迅速に捉え、それを実現するための解決策を顧客や社会に提案し、ビジネスとして具現化していくことが求められています。その際、M&A、選択と集

中、多品種少量生産などの事業戦略を迅速かつ的確に活用し、日本が品質経営で培ってきた改善力をはじめとする現場力を効果的に生かすことで、国際競争力を高めることができます。

品質経営については、2019年の第109回QCSで「令和大磯宣言」、2023年の第116回QCSで「令和大磯宣言2023」が発出され、2026年の第121回QCSでは品質経営のパラダイムシフトと「新たな山脈づくり」について議論が行われました。今回の品質管理シンポジウムでは、前回の議論を踏まえ、新たな品質経営の構築に向けて、大企業はもとより中堅・中小企業、第3次産業においても、多様化する価値に対して企業が取るべき事業戦略と、その実行を支えるプロセスや組織能力を具体的に掘り下げ、「富士山型」から「ヒマラヤ山脈型」への道筋をつけていきます。

また、労働人口の減少やテクノロジーの進化など、経営環境の変化に伴う課題をサプライチェーンの視点で捉え、的確に対応する方策についても併せて議論します。

プログラム

開催期日：2026年12月3日(木)～12月5日(土)
会場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。
※組織名・役職は2026年9月現在の表記になっております。

月日	時 間	科 目	講演者(敬称略)
12/3 (木)	14:00～14:15	開会・組織委員紹介	
	14:15～15:25	〈特別講演〉 挑戦の先に見えた、日本のこれまでとこれから	小倉 隆史 (株)FC.ISE-SHIMA 代表取締役
	15:25～15:45	質疑・応答	
	15:45～15:55	休憩	
	15:55～16:35	〈基調講演・オリエンテーション〉 経営環境の変化に対応した企業構造改革	田熊 範孝 NECファシリティーズ(株) 取締役会長 (122QCS主担当組織委員)
	16:35～16:45	質疑・応答	東 正宜 イー・アンド・エム(株) 取締役執行役員専務
	16:45～16:55	日科技連事業紹介	
	16:55～17:00	事務連絡	
	17:00～18:30	チェックイン・休憩・夕食	
	18:30～20:00	GD(1)・談話室	
12/4 (金)	8:25～ 8:30	主催者挨拶	小笠原 浩 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:30～ 9:20	〈講演1〉 生体認証技術の最前線とAI時代の品質管理	今岡 仁 日本電気(株) NEC フェロー
	9:20～ 9:30	質疑・応答	
	9:30～ 9:35	入替(5分)	
	9:35～10:25	〈講演2〉 IoTからAIファースト経営へ ～デジタル技術と生成AIで進化する旭鉄工の現場改革～	木村 哲也 旭鉄工(株)/i Smart Technologies(株) 代表取締役社長
	10:25～10:35	質疑・応答	
	10:35～10:45	休憩(10分)	
	10:45～11:35	〈講演3〉 品質の再定義・AX時代における『顧客価値』の創出と実現 ～DXからAX時代をかじ取りする戦略的アプローチ	笠原 英一 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 客員教授
	11:35～11:45	質疑・応答	
	11:45～12:35	昼食(50分)	
	12:35～13:25	〈講演4〉 経営におけるブランド戦略と熱量というレバレッジ(仮題)	菅野 沙織 日本輸入化粧品協会 理事長
	13:25～13:35	質疑・応答	
	13:35～13:55	グループ討論会場へ移動・休憩	
12/5 (土)	13:55～17:45	GD(2)	
	17:45～18:00	休憩	
	18:00～19:15	夕食(パーティー)	
	19:15～20:15	談話室	
	8:30～10:00	GD報告(10分×8班 ※予備10分)	司会: 田熊 範孝 報告: 各班リーダー
	10:00～10:15	休憩	
	10:15～11:35	総合討論	
12/5 (土)	11:35～11:50	第122回 品質管理シンポジウム まとめ	田熊 範孝
	11:50～12:00	次回(第123回)品質管理シンポジウム案内	123QCS主担当組織委員
	12:00～	昼食・解散	

※GDはグループ討論の略です。

提案すべき多様化する価値への対応 ～社会価値

講演概要

12/3 (木) 特別講演

挑戦の先に見えた、 日本のこれまでとこれから

小倉 隆史 氏

(株) FC.ISE - SHIMA 代表取締役

1993年、サッカー元年ともいわれるJリーグが開幕したその年、19歳で単身オランダへ渡り、プロサッカー選手として世界に挑戦。文化・教育・医学・習慣など、日本との様々な違いを肌で感じた経験は、その後の挫折や失敗を繰り返した人生において、大きな財産となりました。そこから、諦めない心と、挑戦し続けることの大切さを学びました。

現在は、三重県中南部を拠点とするサッカークラブFC.ISE-SHIMAで、スポーツを競技や興行にとどまらない、地域コミュニティのハブへと変える挑戦を続けています。7歳でサッカーと出会い、およそ半世紀。数多くの苦難や困難、そして少しの幸せを与えてくれたサッカー人生を振り返りながら、日本のこれまでとこれからを語ります。



12/4 (金) 講演 2

IoTからAIファースト経営へ ～デジタル技術と生成AIで 進化する旭鉄工の現場改革～

木村 哲也 氏

旭鉄工(株) / i Smart Technologies (株)
代表取締役社長

IoTによる「見える化」とカイゼンで利益体質へと変革した旭鉄工。現在はその実践を土台に、生成AIを活用し、現場・間接部門・経営まで、仕事の仕組みそのものを生成AI前提へと進化させています。本講演では、「付加価値ファースト」を軸に、AIに認知・分析を任せ、人が判断と付加価値創造に集中する仕事の進め方、現場で実践しているAI活用事例、tenderly、そしてIoTからAIファースト経営へ進化した最新の取り組みを紹介します。

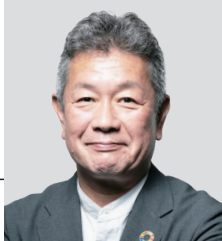


12/3 (木) 基調講演・オリエンテーション

経営環境の変化に対応した 企業構造改革

田熊 範孝 氏

NEC ファシリティーズ(株) 取締役会長



東 正宜 氏

イー・アンド・エム(株) 取締役執行役員専務

外部環境が絶えず変化し、競合各社も改善・成長を続ける中、企業には継続的な進化が不可欠です。

NECはこの30年で、プロダクト中心からITサービス中心へ事業構造を転換し、顧客価値・社会価値の創出を追求してきました。

併せて、カルチャー変革、経営基盤・人事制度の刷新、経営情報のダッシュボード化などにより、働きがいと実行力を高める取り組みを推進。さらにスタッフ部門も、事業価値・企業価値を生み出す存在へ変わるべく業務改革に挑戦しています。

本講演では、NECが取り組んでいる社会価値創造型企業へのトランスフォーメーションの狙いと実践を「令和の大機宣言2023」のフレームに沿ってご紹介いたします。また、ソフトウェア開発に携わるお取引先様による自主的なTQM活動の一例として、「NECソフトウェアパートナーズ交流会」の取り組みについてもご紹介いたします。



12/4 (金) 講演 1

生体認証技術の最前線と AI時代の品質管理

今岡 仁 氏

日本電気(株) NEC フェロー

生体認証技術は、顔・虹彩・指紋認証を中心に社会実装が進み、なりすまし等の攻撃への対策も日々高度化しています。本講演では、これまでの研究開発を振り返りながら、技術を社会に実装する過程で直面した「魔の川」「死の谷」「ダーウィンの海」と呼ばれる壁をどう乗り越えてきたかを、実体験を交えてお話しします。また、生体認証への攻撃手法とその防御技術の最新動向についてもご紹介いたします。さらに、AIが人間の判断領域に近づくなかで、従来型のソフトウェア品質管理では捉えきれない課題が生じている点に触れ、公平性・透明性・説明責任といったデジタルエシックスの視点を含めた、これからの品質管理のあり方について考えます。技術開発の現場で得た知見を、品質管理に携わる皆さまと共有できればと思います。



12/4 (金) 講演 3

品質の再定義:AX時代における 『顧客価値』の創出と実現 ～DXからAX時代をかし取りする 戦略的アプローチ

笠原 英一 氏

立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科
客員教授

DXの基盤はデジタル技術であり、ヒトが主体になって、ビジネス・モデルの変革を目指すものです。これに対して、AXは進化したAIに業務遂行や判断支援のプロセスをゆだねながら、生活や仕事、ひいては社会や産業を変革して人間としての本来のあるべき姿、例えば創造性や感性の発揮などを実現していくという構想です(笠原2026)。両者の関係は対立ではなく、事業変革をテーマにしているという点では同じです。こうした時代背景にあって、「品質」はどのように定義されるべきでしょうか。仮に「品質」を定義する視点を「仕様への適合」から、「顧客の現状と理想のギャップを埋める手段」にシフトさせた場合、品質管理の対象として何を管理すべきなのでしょう。

本講演ではこうした問題意識のもと、「品質」を構築する3つの構成要素:オフリング(価値提案)、オペレーションズ(価値実現)、オーガニゼーション(価値基盤)について論じてまいります。



12/4 (金) 講演 4

経営におけるブランド戦略と 熱量というレバレッジ(仮題)

菅野 沙織 氏

日本輸入化粧品協会 理事長

ビジネスを語るとき、完成した製品をどの流通に配荷し、どういうターゲットにいくらで販売し、どういう広告宣伝、どのインフルエンサーなどを使ってPR、販促活動をするかというローンチプランを検討するのは極めてベーシックなアクションです。しかしコンサル会社や広告代理店からプランを高額で提案してもらいそれを実施したからと言って必ずしも売り上げが上がるわけではないのが現実です。ではどうしたら製品が消費者の手元に、心に届くのでしょうか?そのポイントを過去外資系化粧品会社数社の日本支社代表取締役社長としてV字回復を果たしてきた実際の経験をお話したいと思います。



・顧客価値の最大化に向けた新たな山脈づくり～

122QCS グループ討論

GD テーマ、主旨と論点

※敬称略
※組織名・役職は2026年9月現在の表記になっております。

第1班	製造業の経営における多様化する価値への対応 西 敏明(岡山商科大学 経営学部 教授), 岩佐 伸勝(株ジーシー GQM推進室長) 令和大蔵宣言に加え、2024年版『ものづくり白書』では、製造業の目指すべき姿として「事業機会の拡大に向け、アフターサービスなどのサブスクリプションサービスやプラットフォームビジネスの展開など、ものを作って売るだけではない、ものづくりにおけるビジネスモデルの変革が必要」と示されています。実際、多くの企業が、ハードの販売中心からソリューション事業・メンテナンス事業へのシフト、大量生産から多品種少量生産への転換、M&Aなどによる事業領域の拡大を進めています。第1班では、こうした潮流を踏まえ、各社が直面する顧客価値・社会価値の多様化を正しく捉えたうえで、価値創造につながる事業戦略をいかに策定・実行するか、その具体的なプロセスを議論します。	論点	●日本の製造業が創造すべき顧客価値・社会価値はどのように多様化しているか ●多様化する価値に対して、製造業がとるべき事業戦略は何か ●事業戦略最適プロセスにおいて、変えなくてよいこと、改良が必要なこと、クリエートが必要なこととは何か
第2班	中堅・中小企業・スタートアップなどの経営における多様化する価値への対応 村上 啓介(関西大学 商学部 教授), 花崎 雅彦(まちかど改善塾 代表(元住友理工(株) 取締役CQO)) コスト競争のレッドオーシャンから脱するには、過度な大企業依存を避け、自ら事業機会を拡大する戦略の策定・実行が重要です。そのためには、直接の顧客だけでなく、その先の顧客やエンドユーザのニーズ、ひいては顧客価値・社会価値の変化を的確に把握し、それらを見据えた事業戦略を構築する必要があります。第2班では、中堅・中小企業およびスタートアップなどを対象に、価値の多様化をどう捉え、大企業とは異なるどのような戦略で対応すべきか、具体的な手立てを議論します。	論点	●製造業の中堅・中小企業・スタートアップなどは、顧客およびその先の顧客の顧客価値・社会価値の多様化・変化をどのように把握・分析するか ●多様化する価値に対して、中堅・中小企業・スタートアップならではの事業戦略は何か ●知財の取り扱いや契約上の不均衡(例:無制限賠償[いわゆる青天井])を是正するために、日本として取り得る方策は何か
第3班	サービス業・製造業によるサービス事業における、多様な価値の創造 水流 聡子(東京大学 総括プロジェクト機構 特任教授), 鈴木 浩佳(トヨタ自動車(株) 生産技術統括部 主査) サービス産業の比率が一段と高まる中、製造業においても、これまで培ってきた品質経営の知見をソリューションなどのサービス事業へ展開する動きが広がっています。そこでGD3班では、国内外の先進事例や参加企業の取り組みを参考に、サービス業および製造業によるサービス事業における多様な価値創造のあり方について下記の流れて議論します。まず初めに、顧客・社会の多様化した期待・ニーズをどのように捉えるべきかを考察します。続いてそれらに応えるための事業戦略の方向性を検討し、さらに戦略実現を支えるプロセス、組織能力・しくみの構築・運用について議論します。なお、検討にあたっては第121回品質管理シンポジウムGD8班でも活用した、日本が国際標準化を主導する「サービスエクセレンス」のフレームワークを参照するとともに、その成果物も一部活用します。また生成AIとの壁打ちを通じて、検討結果をブラッシュアップする機会も設定します。皆様との活発な議論を楽しみにしております。	論点	サービス事業における、 ●顧客・社会の、多様化した期待・ニーズの捉え方 ●多様な期待・ニーズに応える、事業戦略策定の在り方 ●事業戦略実現を支えるプロセス、組織能力・しくみの構築・運用
第4班	多様化する価値を踏まえた日本企業の競争力強化と企業間連携について 米岡 俊郎(株P&Qコンサルティング 代表取締役(元トヨタ自動車九州(株) 専務)), 尾本 勝彦(元パナソニック(株) 品質・環境本部 本部長) 顧客・社会に対する新たな価値の創造や課題解決には、バリューチェーンに多様なプレーヤーが参画しそれぞれの強みを生かして連携することが不可欠です。一方で参画する主体が増えるほど、企業・機能間の連携は複雑化し、場合によっては利害の対立や利益相反といった課題も生じます。具体的には、顧客との共創ネットワーク、特許の相互開示、インターフェースの共通化・標準化や情報共有、サステナビリティを軸とした循環型連携、設備・人材の共同投資・共同活用、産学連携によるスタートアップとの共創など、様々な形態が考えられます。第4班では、多様化する価値に応えるためのバリューチェーンを構築する上で、どのような企業間連携が必要なのか、またその実現に向けた課題と対応策は何か、について議論します。併せて企業間連携という視点から、これからの日本企業の競争力強化に向けて、従来のTQMについて「変えなくてよい点」「改良が必要な点」「新たな創出が必要な点」は何か、についても考えていきます。	論点	●企業間連携が機能している好事例と、その成功要因について ●価値創造に資するバリューチェーン構築に必要な企業間連携の要素について ●企業間連携に伴う課題(利益相反など)と、その対応策について
第5班	多様化する価値に応える組織プロセスPDCA・OODAを補完する予測型経営 松村 喜弘(キャディ(株) エンタープライズ事業本部 ソリューション1部 部長), 安藤 淳二(株ジェイテクト イノベーション本部 副本部長) VUCA時代と言われて久しい今日、地政学とグローバル供給網の再整備、AI技術と人的資本の見直しなど経営を取り巻くリスクが多様化しており、事後の対策では間に合わない領域が増えています。一方で、不確実性は事業機会でもあり、的確に将来を見通し、先手を打つために、予測の重要性が問われています。そのなかで、業務全体を大きく捉えて改善するPDCA、顧客のプロセス遂行に寄り添い価値創出を支援するOODAを補完し、予測との差異を検知して適正に修正を加えるプロセスとしてP-MORが注目されています。ここでの予測は意思の代替ではなく、どこまで挑みどこで切り替えるかを先に決め、意思を持続させる仕組みです。第5班では、P-MOR:●事業戦略、●機能間連携、●業務遂行の三層で一気通貫に回す視点から実用化の課題と対応策を議論します。注記 P-MOR:Prediction(リスクの予測と修正案の準備)→Monitor(予測との差異の検知)→Orient(状況判断)→Revision(修正案の選択と実行) OODA:Observe(観察)→Orient(状況判断)→Decide(意思決定)→Act(実行)	論点	●【事業戦略】挑戦の前提が崩れる兆候をどう予測し、撤退・加速の閾値をどこに置くか ●【機能間連携】部門間の「壁」自体をリスクと捉え、誰の責任でどう除去するか ●【業務遂行】将来のリスクをどう捉え、日常活動に落とし込むか
第6班	変化への適応と価値創造を実現するリソースマネジメントと人材育成 竹本 康彦(早稲田大学 創造理工学部 教授), 寺井 哲治(寺井人間研究所 代表社員) 企業では、少子高齢化やバブル期入社世代の大量退職により、急速にリソース不足が進む一方で、経営環境の変化や働き方改革の推進を背景として、仕事に対する価値観も大きく変化しています。また、多様化する価値観に対応するため、組織のあり方にも変革が求められています。こうした環境変化や価値観の対応し、新たな価値を創出できる組織へ転換する鍵となるのがリソースマネジメントです。人・知的資産・設備・資金の配分原則を「効率最優先」から「価値創出・レジリエンス・適応力重視」へ転換することが求められます。また、新事業を生み出す意思決定の枠組み、知的資産の見える化・共有・継承の仕組み、社内外の知識にアクセスするネットワークの構築、人材の流動化を支える組織文化の醸成など、価値創出を支える基盤づくりも不可欠です。第6班では、変化に適応し、価値創造を実現するためのリソースの調達・配分・活用・育成を、いかに設計・運用すべきかについて議論します。	論点	●変化に対応し、価値創造を実現するために、知的資産のマネジメントと人材育成はどうあるべきか ●人と知的資産の相互作用によって価値を創出するために、知的資産を誰がどのようにマネジメントすべきか ●AI・DXを活用した新たな価値創造を推進するために、環境づくりと人づくりを支える仕組みをいかに構築すべきか
第7班	品質活動やサプライチェーンにおけるAI・DXの利活用 泉井 一浩(京都大学大学院 工学研究科 教授), 小林 寛嗣(日本電気(株) ビジネスプロセストランスフォーメーション部門 シニアマネージャー) 製品の複雑化、顧客要求の高度化、規制強化、需給変動・地政学リスクの増大、人材不足の深刻化により、品質活動とサプライチェーン運営の高度化が急務です。AI・DXは現場データの活用を通じて、不良・ムダの削減、トレーサビリティ強化、リードタイム短縮、レジリエンス向上を実現し、競争力と収益性を同時に高める鍵となります。壁打ちや議事録作成といった個人レベルの効率化は既に広がっていますが、次の段階は、人がAIを補助的に使う働き方から、業務プロセスそのものをAI前提で組み直す形へと移ることにあります。そこで扱うAIは生成AIに限らず、業務特化型AIからLLM、AIエージェント、フィジカルAIへと広がります。第7班では、「AI×人」で新たな価値を創出する視点から、日本企業が自らの強みを活かしてこの変化をどう進めるべきかを、具体的なユースケースの選定と、導入に向けた障壁・リスクの整理を通じて議論します。	論点	●業務効率化に留まらず、業務の再設計を促すAI・DXのユースケースは何か ●AI・DX導入に向けた障壁とリスクは何か ●AI・DXを活用し業務の再設計を行う場合、変えなくてよいこと、改良が必要なこと、クリエートが必要ことは何か
第8班	加速する少子高齢化時代におけるノウハウ継承と知識創造をいかに実現するか 石津 昌平(青山学院大学名誉教授), 堤 雄亮(株ペイカレント・コンサルティング シニアエキスパート) 少子高齢化の進行により、労働力人口の縮小、退職ピークの到来、スキルミスマッチの拡大が企業活動と人材育成に直接影響しています。熟練人材の引退で暗黙知の喪失リスクが高まる一方、短期間での習熟・多能工化・デジタル対応が求められています。その担い手として現場に加わりつつあるのが、AIを日常的に使いこなすAIネイティブの世代です。AIとの共生を前提とした価値観やスキル(デジタルリテラシー、AIツールの活用能力)を持ち、情報収集や意思決定、学習スタイルには従来世代と異なる面もあります。また、AIが人を支える手段の幅も、知識の蓄積・活用を担うAIから、動作や感覚の領域を支えるフィジカルAIまで広がっています。ノウハウは受け継ぐだけでは持続可能な組織運営に至らず、受け継いだ知を土台に新たなノウハウを生み出す循環が必要で、第8班では、少子高齢化に伴い実際に直面する課題を深掘りし、持続可能な組織運営とノウハウの継承・知識創造に向けて、異なる価値観やスキルをもつAIネイティブ世代との協働方法などを制度・技術・文化などの観点から幅広く議論します。	論点	●少子高齢化に伴う課題・リスクは、大企業・中堅・中小企業・サービス業でどう異なるか ●異なる価値観やスキルをもつAIネイティブ世代との協働方法は何か ●これらを踏まえ、少子高齢化時代において持続可能な組織運営とノウハウの継承・知識創造に向けた対策はどう行うか

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

※集合参加ができるのはQCS会員のみです。

メリット1 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員：1口につき年額221,100円（税込み） 団体会員：1口につき年額128,700円（税込み）

入会いただきますと

● 企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）を確保できます。

● 団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。

● 無料参加枠以外の方は特別価格（57,200円・税込み）でご参加いただけます。

● 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

入会申込
フォーム



※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2026年9月現在 五十音順 127社

- | | | | |
|----------------------|----------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 1 アート金属工業 (株) | 34 コーセル (株) | 64 ダイヤモンド電子 (株) | 97 パナソニック オペレーショナル
エクセレンス(株) |
| 2 (株) アーレスティ | 35 小島プレス工業 (株) | 65 大和リース (株) | 98 (株) 羽生田製作所 |
| 3 (株) IHI | 36 コニカミノルタ (株) | 66 (株) 竹中工務店 | 99 (株) 日立製作所 |
| 4 (株) アイシン | 37 小林製薬 (株) | 67 中国化薬 (株) | 100 日野自動車 (株) |
| 5 アイシン軽金属 (株) | 38 (株) 小松製作所 | 68 (株) 千代田グラビヤ | 101 ヒロセ電機 (株) |
| 6 アイシンシロキ (株) | 39 (株) コロナ | 69 DMG 森精機 (株) | 102 フジテック (株) |
| 7 愛知製鋼 (株) | 40 サンデン (株) | 70 (株) テクノプロ | 103 富士フイルム
ビジネスソリューション (株) |
| 8 アイホン (株) | 41 (株) シーヴィテック | 71 (株) デンソー | 104 富士電機 (株) |
| 9 (株) 青山製作所 | 42 (株) GS ユアサ | 72 (株) 東海理化 | 105 フジミ工研 (株) |
| 10 旭化成 (株) | 43 (株) ジーシー | 73 (株) 東陽テクニカ | 106 フタバ産業 (株) |
| 11 (株) EARTHBRAIN | 44 (株) ジーシーデンタルプロダクツ | 74 東レ (株) | 107 (株) プリヂストン |
| 12 Astemo (株) | 45 JFE スチール (株) | 75 (一社) 富山県経営者協会 | 108 べんてる (株) |
| 13 (株) 麻生 | 46 (株) ジェイテクト | 76 トヨタ自動車 (株) | 109 (株) 保志 |
| 14 (株) アドヴィックス | 47 (株) ジェイテクトエレクトロニクス | 77 トヨタ自動車九州 (株) | 110 前田建設工業 (株) |
| 15 (株) イシダ | 48 (株) ジェイテクト
グライディングツール | 78 トヨタ自動車北海道 (株) | 111 (株) 前田製作所 |
| 16 AGC (株) | 49 芝浦機械 (株) | 79 (株) 豊田自動織機 | 112 マツダ (株) |
| 17 NEC ファシリティーズ (株) | 50 JUKI (株) | 80 トヨタ車体 (株) | 113 (株) マルヤスエンジニアリング |
| 18 NEC プラットフォームズ (株) | 51 Sky (株) | 81 トヨタ紡織 (株) | 114 三島食品 (株) |
| 19 NSK ワーナー (株) | 52 (株) SUBARU | 82 トヨタ紡織滋賀 (株) | 115 三菱電機 (株) |
| 20 (株) 荏原製作所 | 53 住友ベークライト (株) | 83 トヨタホーム (株) | 116 (株) 村田製作所 |
| 21 (株) FTS | 54 住友理工 (株) | 84 ドリームベッド (株) | 117 (株) メイドー |
| 22 (株) MC システムズ | 55 関工業 (株) | 85 長津工業 (株) | 118 名北工業 (株) |
| 23 エリーパワー (株) | 56 積水化学工業 (株) | 86 西田精機 (株) | 119 安川オートメーション・ドライブ (株) |
| 24 大塚化学 (株) | 57 (株) セキソー | 87 日華化学 (株) | 120 安川コントロール (株) |
| 25 オークマ (株) | 58 ソニーセミコンダクタ
ソリューションズ (株) | 88 (株) 日科技連出版社 | 121 (株) 安川電機 |
| 26 (株) オティックス | 59 ダイキン工業 (株) | 89 日産自動車 (株) | 122 UBE (株) |
| 27 オムロン (株) | 60 ダイハツインフィニアース (株) | 90 日産車体 (株) | 123 ユーロフィン FQL (株) |
| 28 花王 (株) | 61 ダイハツ工業 (株) | 91 日本精工 (株) | 124 (株) ユニバース |
| 29 鹿島建設 (株) | 62 (株) ダイヘン | 92 日本電気 (株) | 125 楽天グループ (株) |
| 30 (株) キャタラー | 63 ダイヤモンドエレクトリック
ホールディングス (株) | 93 (株) 日本科学技術研修所 | 126 (株) リコー |
| 31 京西テクノス (株) | | 94 日本商工会議所 | 127 その他団体 (1社) |
| 32 (株) クボタ | | 95 日本特殊陶業 (株) | |
| 33 (株) 神戸製鋼所 | | 96 パナソニック ホールディングス(株) | |

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

※組織名・役職は2026年9月現在の表記になっております。



小川 啓之

(株)小松製作所
取締役会長



田熊 範孝

NEC ファシリティーズ(株)
取締役会長



永田 靖

早稲田大学名誉教授



棟近 雅彦

早稲田大学
教授



山田 秀

慶應義塾大学
教授



若林 宏之

元(株)デンソー
取締役副社長

※品質管理シンポジウム(QCS)は、上記組織委員が持ち回りで各回QCSの主担当を務めます。

最近の主な講演者

※組織名・役職は講演当時の表記になっております。

第 121 回	第 120 回	第 119 回	第 118 回	第 117 回	第 116 回	第 115 回
						
谷 真氏 株式会社いーく ホールディングス 代表取締役会長CEO	南場 智子氏 株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役会長	安宅 和人氏 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 LINE ヤフー(株) シニアストラテジスト	鎌田 浩毅氏 京都大学名誉教授	木目田 裕氏 西村あさひ法律事務所・ 外国法共同事業 弁護士	桜井 博志氏 旭酒造(株) 会長	増本 陽秀氏 株式会社 飯塚病院 院長

参加要領

※詳細は、WEBサイト掲載の「開催要領」をご確認ください。

主 催	一般財団法人 日本科学技術連盟
後 援	一般社団法人 日本品質管理学会
開催日時	2026年12月3日(木) 14:00~12月5日(土) 12:00 (12月3日受付開始 13:00~)
会 場	大磯プリンスホテル 〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546 TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281
参加対象	企業の役員、上級管理職の方々他 ※今回のシンポジウムテーマ、グループ討論に深く関係のある部門とその役割を担う方々のご参加について是非ご検討をお願いいたします。
参加方法	集合参加 現地(大磯プリンスホテル)にて、シンポジウム全プログラムにご参加可能です。 ライブ視聴参加 PC等で、特別講演・基調講演(1日目)、講演1~4(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)をご視聴いただけます。また、許諾のある講演、および3日目プログラム(GD報告・総合討論)については、シンポジウム終了後に特定期間限定で「見逃し配信」をご視聴いただけます。 特記: 1.ライブ視聴参加の場合は、GDへはご参加いただけません。 2.ライブ配信、見逃し配信の配信プラットフォーム、推奨環境はWEBサイトをご確認ください。
参加費 (税込)	QCS企業会員・団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠1名分、の無料枠をご利用いただけます。※トップ枠をご利用されない場合、無料枠は「通常枠(1名分)」のみ。無料枠以外の参加は、参加方法にかかわらず、57,200円/1人の参加費を申し受けます。 一般参加 (QCS会員以外) ライブ視聴参加のみ(132,000円/1人) 団体参加 (ライブ視聴参加のみ) シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加(視聴)いただく場合にご利用しやすい参加形態です。 50名まで 550,000円、51~100名まで 880,000円、101~200名 1,100,000円、201名以上 要問合せ
その他	参加費の請求書は、お申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。 集合参加の付帯費用 ・別途、大磯プリンスホテルでの宿泊費がかかります。 ・宿泊費の請求書は、株式会社ジャパトラよりお申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。 ・食事代(12月3日夕、12月4日朝・昼・夕、12月5日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれております。 ・会場までの交通費はご自弁ください。

シンポジウム 申込方法

QCS専用WEBサイトからお申し込みください。

お申込みはこちらから <https://www.juse.jp/qcs/app/>

集合参加一次申込期日: 10月19日(月)

※会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申し込みください。

- ・集合参加一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、引き続き二次申込を実施します。
- ・ライブ視聴参加の申込締切は、11月12日(木)とさせていただきます。

お申込み
QRコード



シンポジウムに関する 問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング4階
TEL: 03-5990-5846 E-mail: qcs@juse.or.jp

宿泊に関する 問い合わせ先

株式会社ジャパトラ QCデスク 担当: 柏木・鶴川
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-21-1 NKフジビル8階
TEL: 03-6915-3646 E-mail: qcdesk@japatra.co.jp